

2020年
3月号
NO. 0091

カトリック笹丘教会 教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
Tel761-4504 fax761-4524
広報委員会

新しい創造



主任司祭 遠山満

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、様々な活動が自粛され、私達の生活が混沌となってきております。あちらこちらでデマが飛び交い、マスクやトイレットペーパーが、スーパーやドラッグストアで品切れになっております。小中高が、三月に入るや否や休みとなり、加えて、図書館や美術館、プール、学校の校庭なども閉鎖され、子供たちも大変な休みの時を過ごしています。また、各地の観光地では観光客が激減しています。政府からの自粛要請を受けて、まじめに休業した人達が、政府に対して、その間の給与の支払いを求める訴えを起こしたりしています。教会も、政府の自粛要請を受けて、三月二十九日まで、ミサが行われない事となっています。

このような状況に追い打ちをかけるがごとく、先日、森友学園問題で自死した財務省の職員のパイプが、国を相手取って訴訟を起こしました。自死した財務省の職員は、公文書の書き換えに関して、「嘘に嘘を塗り重ねるといふ、通常では有り得ない対応を本省は引き起こした」と書き残しています。死前にしている人は、嘘を言わないはずです。ですから、私達が、様々な事で依拠している日本政府は、頼りにならないという事になります。私達は、このような政府の指示に従って、現在の生活を送っているのですから、現在の状況は、混沌と呼ぶに相応しいかと思えます。

このような時、私達は、どのように生活すればよいのでしょうか。私達は、このような世界の中で、私達自身の生活が混沌としてきます。それは、秩序を失っていくと言う事です。このような時、私達は、パウロの次の言葉を思い出したいと思えます。「キリストに結ばれる人は誰でも、新しく創造された者なのです」(Ⅱコリント5章17節)。

旧約聖書の創世記の冒頭には、世界の創造物語が記されています。そこには、世界は初め、「混沌」であったとされています。神様は、混沌からこの世界を創造していかれました。つまり、混沌とした世界に秩序を与えていかれたのです。

この世界に生きていて、例えば私達の生活が混沌となってきても、私達はキリストを見つめて、キリストに繋がっていきましょう。そうすれば、キリストが、私達の生活に、再び新しく秩序をもたらして下さいます。

カトリック笹丘教会 役員会議事録

開催日時：2020年2月22日(土) 16:00~18:00

開催場所：信徒会館

出席者：遠山神父、川原、辻部、前田、田川、菅、畠山、川原(圭)、喜多村、牧山

欠席者：井口

司会：川原 書記：牧山

†主の祈り

議題

1. 小教区運営規約について

- ・役員候補は4つのグループからそれぞれ男女1名ずつ出してもらうこととし、役員的人数は8人とする。信徒協担当は会長ほかその他の役員が兼務することとする。来年の役員候補を選出するために、グループで集まって話し合う必要がある。
- ・これまで出された意見及び役員会で検討した結果を反映した規約の最終案を川原会長が作成し、3/1(日)の拡大信者会で配布し、総会に提案する最終案を決定する。
- ・規約の最終案と総会委任状を維持費ボックスに入れる。
- ・役員の交通費は予算化せず、実費精算とした方が分かりやすく良いのではないかとの意見があったが、公共交通機関を使った場合の交通費を積み上げて予算化することとした。各委員会の予算は、それぞれで集まって話し合う必要がある。

2. 防火・防災 役割分担について

- ・通報担当、非常ベル担当、初期消火担当、避難誘導担当、搬送担当、残留者確認担当を決め、訓練実施前に担当者で集まって、非常ベル、消火器、ばい煙スイッチ、ハンドマイクの場所の確認が必要。ハンドマイクの置き場所は聖堂内オルガン近くの台の下とする。
- ・スムーズに通報ができるように、通報内容を掲示しておく。「火事」と「救急」で相手から尋ねられる項目が異なるので、掲示内容の検討が必要。

3. 備品について

- ・パソコンとプリンター(複合機)は3/10納品予定。
- ・充電式掃除機をもう1台購入予定。
- ・事務室のコピー機が限界にきており買替が必要。印刷機は原版に100円掛かっておりコストが高い。

4. 今後の予定

- ・4/12(日)復活の主日 ・4/25(土)女性の会総会

†アヴェマリアの祈り

3月20日 青田憲司^{けんじ}助祭の司祭叙階式、西田祐尚^{すけなほ}神学生の助祭叙階式は浦上教会にて無事執り行われました。おめでとうございます！



「レジオマリエ」をご存じですか？



第7回

今、世界は大きな試練に直面しています。新型コロナウイルスの勢いは、まだ止まることを知らないようです。先日電話でお話した信者さんが、信者になって70余年、こんなことは初めて、とおっしゃっていました。迫害の時代ではないのに、教会でごミサに与れない寂しさ、ご聖体をいただけない悲しさを、皆様もかみしめていらっしゃるのではないかと思います。今回は、少しでも励ましになれば、と思い、今年の、灰の水曜日の翌日3月7日の集会でなされた、指導司祭ヒルデン神父様の短いお説教(アロクチオ)をご紹介します。

今日の福音(ルカ 9:22-25)の最後の言葉は『人はたとえ全世界を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり失ったりしては何の得があろうか。』この言葉は聖フランシスコ・ザビエルに大きな光を与えた言葉ですね。ご存知のように、彼は貴族で家はお城でした。たくさんお金があって外国の大学まで行きました。そこで、イエズス会を創ろうとした聖イグナチオ・ロヨラに出会い、誘われました。大きな決断だったと思いますね。よい生活ができるすべてを捨てる。聖書の言葉、イエス様の言葉がすごい力を与えました。「すべてのよいものを手に入れても魂が減びたら何の得もない。」そこで、「はい、一緒に司祭として働きます。」と返事をしました。

第一朗読の申命記(申命記 30:15-20)では、神様はいつも、私たちに決断しなさい、と言います。神様は、私たちの自由意思を尊重します。わたしの命じることをしなさい、と言うより、「あなたは従いますか？ 従わないですか？ 自分で考えて選んで下さい。」『命と幸い、死と災いをあなたの前に置く。わたしが今日命じるとおり、あなたの神、主を愛し、その道に従って歩み、その戒めと掟と法を守るならば、あなたは命を得る。』どうして神様に従うか、理由があります。いのちを得るためです。イエス様は申命記を思い出しながら、弟子たちに「わたしに従いなさい」と話していたと思います。「わたしについてきなさい。自分を捨て、日々自分の十字架を背負ってわたしに従いなさい。わたしに従うことは楽ではないよ。自分を捨てることが必要。わたしの真似して、わたしと同じように生活しなければならない。弟子になるか、わたしを無視するか、判断して選んで。」『生と死、祝福と呪いをあなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。』そういう心で弟子たちに話しています。

『いのちを選びなさい』四旬節の初めに私たちは自分の心を見つめましょう。自分が何を選んでいるのでしょうか。本当に生きるならば、イエス様の生き方を選ばなければならない。はっきりした判断をしなければならない。四旬節の間に、弱い私たちですから、「わたしがあなたについていけるように、あなたを真似しながら生活ができるように恵みをください。」と、多くの祈りを捧げないと、正しく選択しないだろう、と思います。

1日も早く、新型コロナウイルス感染症の猛威が収まるよう、皆さまと共に祈りたいと思います。

十 信じる喜びから伝える喜びへ



匿名希望

「我が神、我が神、なぜ私をお見捨てになったのですか」
この一節が鳴り響いたのは、昨年暮れのクリスマス翌日の事だった。救いを待ち望んでいただけに、心は脆くなり、崩れ落ちそうだった。
しかしその3日後、ある出来事を通して神様は大きな励ましを下された。それは、“私はあなたを決して見捨てない”というメッセージの様に思えた。その日は聖家族の祝日だった。

“私は神様に愛されている”

人生の困難を乗り越えるために、私達はこのことを日々何度も思い出す必要がある。十字架に示されたイエス様の限らないその愛を。

『あなたがたは、世にあっては艱難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです』(ヨハネ 16.33)

天国への憧れを抱きながら、この世でも復活の喜びを生きる事ができます様に。全てを天の御父に委ねられたイエス様に、日々倣うことができます様に。主の愛に信頼しながら。

【伝える喜び】引き続き募集中です。日常の些細な事でも結構です。人前では普段話さない想いを、紙面を通じて分かち合いませんか？

【信仰のルーツ】もまだまだ募集中。聖堂後ろの箱、または広報委員に直接お渡し下さい。文章の長さは問いません、皆さんの投稿をお待ちしています。

お知らせ

昨年 12 月 28 日に「教皇様来日特集号」を 200 部発行して今年 1 月には全てなくなりました。まだお持ちでない方は広報委員までお知らせください。

編集後記

『ミサが中止』一ヶ月もミサが公開されない事は今までに例がなかった。最初は、一時休息を頂いたようで少しほっとしてしまっていた自分がいたが、さすがに延長はこたえた。深刻な状況のイタリア、全世界の為に皆で心を一つにして祈るのみだ。

一連の騒動でトレットペーパーが底をつき、朝一にドラッグストアへ車を走らせるも渋滞していた。想定外の状況に焦る気持ちを押さえながら、ふと「何があっても神様に感謝していよう…」と考えていた。開店 5 分後に着いたときには既に陳列棚は空、しばらく隅に留まっていると女性に声を掛けられた「あの…よかったらこれどうぞ」。お一人様 1 個のところを間違えて 2 個持っていたらしい。そしてレジに並ぶ人達と会話をしたり、嬉しさと同時にとても温かな気持ちになった。『いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい、どんな事にも感謝しなさい』というパウロの言葉を深く噛みしめたひと時でした。

(A・S)

